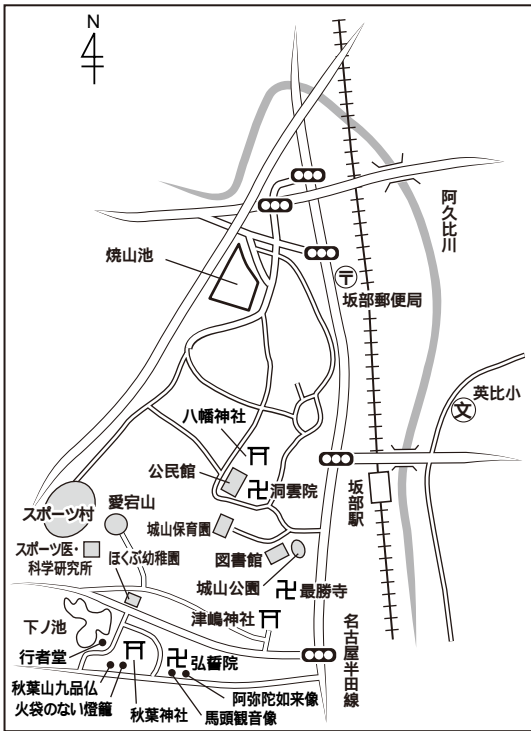
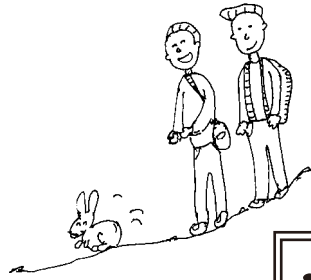


シリーズ

阿久比を歩く ①①④



弘誓院境内に安置される“阿弥陀如来像”

卯之山公園を通り、東側から秋葉山へ上るために造られた石段を上る。後ろを振り返ると、まちの景色が一望でき、高い場所にいることがよく分かる。

山頂には秋葉神社が整備され、左手奥に「火袋のない燈籠」と「秋葉山九品仏」が並ぶ。二種類の石造物はともに愛宕山山頂にあり、小学校運動場建設（坂部・卯之山コースで紹介）のために現在の場所へ移された。

あぐいぶらり旅

石造物を巡る（坂部・卯之山コース⑥）

燈籠に火をともし「火袋」がないのは、運動場建設中に破損、九品仏は長泉寺（現最勝寺）二十九代秀音住職が元禄八（一六九五）年に建立した石造物だと文化財調査報告に解説がある。

極楽浄土へ往生する者は、生前に積んだ功德の違いで、九つの階位に分けられるといわれ、それぞれの極楽浄土にいる九体の阿弥陀仏を九品仏と呼ぶようだ。

「中央にいる仏さん、僕の顔に似てませんか」と友人が言う。「確かに、りりしいところが似ているかなあ」。仏の前で思ってもいないことを口にしてしまった私。反省しながら、仏に手を合わせる。

坂部・卯之山コースの最後に、弘誓院境内にまつられる「阿弥陀如来像」と「馬頭観音像」を探す。参道に大きく「筆塚」と記された石碑を横目に、弘誓院山門をくぐる。

老住職と話ができた。書院に通してもらい、抹茶をこちそうになる。

「子どものころは近くの山にウサギ狩りによく行きましたよ」。うれしそうに話す老住職の瞳が少年の目の輝きが変わる。

弘誓院の山号は「兎養山」。卯之山地区の地名は、この山号にちなみ「兎之山」と呼ぶようになったと伝わる。一昔前まで、本当にウサギがすんでいたようだ。

「阿弥陀如来像」と「馬頭観音像」を案内してもらおう。座ってひざの前で手を組む阿弥陀像は、小さなお堂の中に安置される。「寶曆二年壬申四月八日」の文字がはつきりと読める。牛馬の守護仏とされる馬頭観音は、山門近くで、ほかの石碑とともに並ぶ。屋根のある場所に置かれていないせいか、風化が激しい。

「二つとも私が住職になる前からあったみたいだからねえ。皆さんが花を供えて大事にしていますよ」。

寺を後にして、細い坂道を下る。日が沈みかける。路地裏から白いネコが飛び出す。一瞬「ウサギ」かと思ったのは私も友人も同じだった。



秋葉山山頂に並ぶ「火袋のない燈籠」と「九品仏」